



Mao FUJITA Piano Recital

藤田真央

ピアノ・リサイタル

2020年9月17日(木) 19:00開演

東京オペラシティコンサートホール

7:00 p.m. Thursday 17 September, 2020 Tokyo Opera City Concert Hall

2020年9月19日(土) 14:00開演

東京オペラシティコンサートホール

2:00 p.m. Saturday 19 September, 2020 Tokyo Opera City Concert Hall

【主催】 ジャパン・アーツ

【協力】 ナクソス・ジャパン

2020年9月17日(木) 19:00開演 東京オペラシティコンサートホール

7:00 p.m. Thursday 17 September, 2020 Tokyo Opera City Concert Hall

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第13番「幻想曲風ソナタ」変ホ長調 Op.27-1

Beethoven : Piano Sonata No.13 “Sonata quasi una fantasia” in E-flat Major Op.27-1

チャイコフスキー：ロマンス ヘ短調 Op.5

Tchaikovsky : Romance in F Minor Op.5

チャイコフスキー：ドゥムカ ハ短調 -ロシアの農村風景- Op.59

Tchaikovsky : Dumka in C Minor Op.59

アルカン：「短調による12の練習曲」から 第12番 “イソップの饗宴” ホ短調 Op.39-12

Alkan : “Aesop's Feast” in E Minor from 12 Etudes in All the Minor Keys, Op.39-12

* * * * *

ショパン：幻想曲 ヘ短調 Op.49

Chopin : Fantaisie in F Minor Op.49

ショパン：ポロネーズ 第7番 変イ長調「幻想」Op.61

Chopin : Polonaise No.7 “Fantaisie” in A-flat Major Op.61

シューベルト：「さすらい人幻想曲」ハ長調 Op.15 D.760

Schubert : Wandererfantasie in C Major Op.15 D.760

2020年9月19日(土) 14:00開演 東京オペラシティコンサートホール

2:00 p.m. Saturday 19 September, 2020 Tokyo Opera City Concert Hall

モーツァルト：ピアノ・ソナタ 第7番 ハ長調 K.309

Mozart : Piano Sonata No. 7 in C Major, K. 309

チャイコフスキー：ロマンス ヘ短調 Op.5

Tchaikovsky : Romance in F Minor Op.5

チャイコフスキー：ドゥムカ ハ短調 -ロシアの農村風景- Op.59

Tchaikovsky : Dumka in C Minor Op.59

アルカン：「短調による12の練習曲」から 第12番 “イソップの饗宴” ホ短調 Op.39-12

Alkan : “Aesop's Feast” in E Minor from 12 Etudes in All the Minor Keys, Op.39-12

* * * * *

ショパン：幻想曲 ヘ短調 Op.49

Chopin : Fantaisie in F Minor Op.49

ショパン：ポロネーズ 第7番 変イ長調「幻想」Op.61

Chopin : Polonaise No.7 “Fantaisie” in A-flat Major Op.61

ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ ト長調

Ravel : Pavane pour une infante défunte

ラヴェル：ラ・ヴァルス ニ長調

Ravel : La Valse



藤田 真央(ピアノ) *Mao Fujita (piano)*

2019年6月チャイコフスキー国際コンクールで第2位を受賞。審査員や聴衆から熱狂的に支持され、ワレリー・ゲルギエフの言葉「MAOの存在は、今回のコンクールの“サプライズ”だ」とともに、世界中に注目された。

2017年には弱冠18歳で、第27回クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクール優勝。併せて「青年批評家賞」「聴衆賞」「現代曲賞」の特別賞を受賞。2016年には浜松国際ピアノアカデミーコンクールで第1位に輝くなど、国内外での受賞を重ねている。

2019/2020シーズンは、ゲルギエフ指揮マリインスキー歌劇場管弦楽団と共演しロンドン・デビュー。THE TIMES紙で「藤田は素晴らしい表現力と趣味の良い感性を持っており、躍動的で雄弁な詩情と、深みのある解釈を持ちつつ、恐れを知らない大胆な表現ができる。」と大絶賛された他、ミュンヘン、ニューヨーク、モスクワ、サンクトペテルブルグ、ソウルなどでもデビュー。

2019年12月ゲルギエフ指揮マリインスキー歌劇場管弦楽団日本公演で、急な代役としてチャイコフスキー：ピアノ協奏曲第2番を共演。初めての演奏にも関わらず、瑞々しい音色、豊かな抒情性、類まれな音楽センスで、多くの聴衆を魅了。指揮者やオーケストラからも讃辞を受けた。

これまでにルール音楽祭、ナントのラ・フォル・ジュルネに参加。2020年7月には、オンラインで開催されたヴェルビエ音楽祭のプログラム「ヴェルビエ・ジェネレーション～音楽祭が見つけた若き才能～」に抜擢され、リサイタルが世界中に配信された。

2020/2021シーズンは、ミュンヘン・フィルとの共演、ロンドン、パリ、ミュンヘンでのリサイタル、ヴェルビエ音楽祭での《モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会（5回）》などが計画されている。国内では、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、群馬交響楽団、札幌交響楽団などとの共演、各地でのリサイタルとともに、春からは3年5回にわたる《モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会》をスタート予定。

これまでに、ワレリー・ゲルギエフ、カーチン・ウォン、アレクサンドル・スラドコフスキー、ワシリー・ペトレンコ、オレグ・カエターニ、リッカルド・ミナーシ、飯守泰次郎、小林研一郎、秋山和慶、大友直人、高関健、飯森範親、藤岡幸夫、山田和樹、マリインスキー歌劇場管弦楽団、ユタ交響楽団、ローザンヌ室内管弦楽団等と共演。

最新CDはレコード芸術誌で特選盤になった『ショパン：スケルツォ／即興曲』（ナクソス）。

『題名のない音楽会』『報道ステーション』などメディア出演も多い。

1998年東京生まれ。ロームミュージックファンデーション奨学生。江副記念リクルート財団第49回奨学生。

2020年、有望な若手に贈られる「第21回ホテルオークラ音楽賞」「第30回出光音楽賞」を受賞した。

今回のプログラムのテーマは、ファンタジーです。

決まった型のないファンタジーという音楽は、自由そのもの。さまざまな作曲家の幻想曲を集めて構成していますが、それはつまり、私が抱く作曲家たちのファンタジー、私自身のファンタジーを弾くということ。

新しい世界を求めて取り組む渾身のプログラムです！

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第13番「幻想曲風ソナタ」変ホ長調 Op.27-1

ベートーヴェンが難聴を患い、ハイリゲンシュタットの遺書を書く一年ほど前に作られた作品です。30代前半、当時模索していた要素が盛り込まれています。全楽章アタッカで入るところ、ソナタ形式の楽章が一つもないところなどが新鮮で、移調の仕方も当時にしては前衛的です。例えばハ短調の第2楽章は、三部形式(A-B-A)のBの部分の変イ長調で書かれていますが、これはハ短調の近親調でないにもかかわらず、とてもスムーズにつながっています。

対旋律がたくさん出てくるところは、後期ソナタのドラマティックで壮大なフーガを思わせます。こういうものがさりげなく出てくるところが、さすがベートーヴェン。聴きどころは、楽章と楽章の間や変わり際の表現です。第2楽章の最後の音がフェルマータで伸ばされ、第3楽章の重厚な音楽に入っていく間や、第4楽章に移るところもインパクトがあると思います。新しい何かを探し求めたベートーヴェンの心意気が現れている作品。そういう曲が好きで、ずっと弾きたいと思っていました。今回取り上げることができて嬉しいです。

チャイコフスキー：ロマンス ヘ短調 Op.5

チャイコフスキーが20代の頃の作品で、当時彼が好きだったメゾソプラノに捧げられています。

三部形式(A-B-A)で、Aの部分が美しく切ない旋律で始まり、それに続くBの部分はコサックダンスのようで少し変わっています。再び戻ってきたAの部分は内声がポリフォニックになり、さらに一度目のバスの音がファから始まっていたところが、ラに代わります。些細な違いですが、これにより和声的な変化がつけやすく、音楽が上昇気流に乗るのです。先人から受け継いだとおり、構成はとてもシンプル。若き日のチャイコフスキーらしい作品です。

チャイコフスキー：ドゥムカ ハ短調 -ロシアの農村風景- Op.59

一方の「ドゥムカ」は晩年に書かれました。チャイコフスキーの作品には一貫してロシアの民謡や踊りの要素が含まれていますが、後期になるとそこから脱却した、自分ならではの音楽を作るようになっていきます。「ドゥムカ」とは“哀歌”の意味。美しい旋律があり、そこに厳しさを感じる和声が使われることで、胸の締めつけられるような、もがきつつ精一杯上に向かおうとする雰囲気が生れます。中間部は変わっていますが、最後に哀しい音楽に戻ってくところの描写がすばらしいです。あとは、ラストの部分が印象的です。もうひと押し欲しかったのかなという一音を加えられています。ちなみに、昨年のチャイコフスキー国際コンクールでも、その後に訪れたニューヨークのリサイタルでも、最後の一音の前に拍手が出ました(笑)。今日は、最後までじっくりお楽しみください！

アルカン：「短調による12の練習曲」から 第12番“イソップの饗宴”ホ短調 Op.39-12

アルカンに興味を持ったのは高校生のころです。ショパンの病状が悪化する中、アルカンが彼の生徒たちを全員引きとって教えると名乗り出てくれて安堵した、というエピソードが残っています。それを知り、いい人なんだなと思ったのが、アルカンにハマった理由です(笑)。

「イソップの饗宴」は「練習曲」と書かれていますが、実際は“変奏曲”です。8小節単位で次の変奏に移るところは、ベートーヴェンの「創作主題による変奏曲」に似ています。変奏曲ごとに、そのテクスチャーや「夢見るように」「ホルンのように」といった指示が細かく書かれており、弾いていて飽きません。

難しいのは、山場が何回もあるところ。むやみに盛り上げると、聴き手を疲れさせてしまいます。全体の流れを考えて演奏しなくてはならない作品です。

ショパン：幻想曲 へ短調 Op.49

ショパンの幻想曲は、ソナタ形式を意識しながらも自由な形で書かれています。これはバラードでも行われていることですが、バラードは3拍子系なのに対して、幻想曲は4拍子系。スムーズな流れが突然止まったり、うごめいたり、瞬間ごとに描写が大きく移行します。曲が書かれたのは、恋人のジョルジュ・サンドと暮らし、充実した創作活動をしていた頃。健康状態も落ち着き、人生を満喫していた様子が表れています。冒頭の葬送行進曲のような部分も、悲しみの表現というよりは、小説家だったサンドから物語を聞くことで出来上がった描写だろうと私は思います。

ショパン：ポロネーズ 第7番 変イ長調「幻想」Op.61

同じ幻想つながりとはいえ、「幻想曲」との類似点はあまりないと思います。唯一あるとすれば、冒頭のメロディが4度下降するところでしょうか。ショパンは、同一テーマの曲を書くときに、よく同じパターンを用いていました。ポロネーズのわりに、その踊りのリズムは最初と最後くらいしか出てきませんが、そのリズムの中に「空間」が非常に多くとられているので、タイミングや響きをよく考えて弾く必要があります。

また、晩年の作品らしくポリフォニックで、和声の移り変わりも細かく、一拍単位で変化する部分もあるほど。密度が濃いので、きちんとアナリーゼできていないと、真の魅力を表現することができない作品です。

シューベルト：「さすらい人幻想曲」ハ長調

シューベルトが、自身の歌曲「さすらい人」のメロディを引用していることから、こう呼ばれています。全体を細分化してみるとタンタタ、タンタタ、タンというリズムを繰り返すシンプルな曲。しかし、ウィットに富んだ和声やさまざまな要素が盛り込まれていて、飽きさせません。

作品は4つの部分からなります。いわゆる2楽章にあたる部分は、グラーヴェのメロディがゆっくり流れ、左手が四分音符から八分音符、三連符、十六分音符、三十二分音符、六十四分音符と変わっています。このプロセスはベートーヴェンの作品、例えばOp.111のソナタの第2楽章でも見られるもの。最後の部分が盛大なフーガのようなのも、ベートーヴェンを意識してのことではないかと思います。

形式や音楽の作り方は尊敬していたベートーヴェンの影響を受けていますが、美しく叙情豊かに歌うメロディはシューベルトそのものという名曲です。

モーツァルト：ピアノ・ソナタ 第7番 ハ長調 K.309

マンハイム・パリ旅行をした21歳の頃、マンハイム宮廷管弦楽団コンサートマスターの娘のために書いた作品です。モーツァルトは滞在中、彼の家に連日出入りしてどんちゃん騒ぎをしていたらしく、その楽しい気分が溢れるような明るい曲です。

第1楽章、第2楽章と、強弱の起伏が激しいところが特徴。装飾音もたくさん入っています。第3楽章は、シンプルなメロディと左手の伴奏という、当時の典型的な音楽なのですが、何か惹かれるものがあります。次に書かれたソナタ8番(K.310)の、失望と懺悔に満ちた曲とのギャップが大きい。その後、母親が亡くなることなど何も予期していないモーツァルトの、邪念も画策もない曲。弾いていても楽しいです。

ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌト長調

ラヴェルが24歳の時に書いた作品です。音の数は最小限に抑えられていますが、晩年に見られる複雑化した和声を取り入れられています。スペインの要素も盛り込まれ、メロディも響きも美しい。生前、この作品はあまり受け入れられなかったそうですが、ラヴェル本人は名作だと自負していた作品。ただただ美しく弾きたいと思います！

ラヴェル：ラ・ヴァルス ニ長調

「亡き王女のためのパヴァーヌ」「ラ・ヴァルス」とともに、舞踊(ダンス)をテーマにした音楽です。しかしこの2曲の大きな違いは、作曲時期が第一次世界大戦の前と後だということ。戦争が始まると、ラヴェルは愛国心から志願兵に名乗り出ましたが、体が弱かったため結局体を壊して除隊します。さらには最愛の母を亡くし、かつてみなぎっていた創作意欲はすっかり失われてしまいました。

戦後の充実した作品といえば「クープランの墓」。あとは、もがき苦しんで生み出した、この「ラ・ヴァルス」でしょう。勉強するうえでは、原曲のオーケストラの表現を意識しました。前半はラヴェルらしい和声を使ったすばらしい音楽が流れますが、問題は終盤。崩壊に向かい、最後は無理やり終わった、という感じ。そんな壮絶なカタストロフィーを、しっかり表現したいと思います。

藤田真央 (取材・執筆：高坂はる香)

アーティストの音楽活動 ご支援のお願い

私たちジャパン・アーツは、1976年の創業以来“人のいるところには夢がいる。”をモットーとして、舞台芸術・クラシック音楽のコンサートを日本全国にお届けしてまいりました。

伝統の中で育まれた芸術が、不安になりがちな心を受け止め、次に向かう気持ちを奮い立たせる存在になる、これからの社会でも大切な役割を果たしていくと信じております。人がいるところに“夢”は必要であり、その多くの“夢”を支えていくもののひとつが、音楽だと思います。
その音楽を守るため、皆さまのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



ご支援に感謝申し上げますとともに、ご芳名を記載させていただきます。

穴田 敦子 J.A. Y.A. Tami.I Y.I. 池田 俊也 石井 登 石橋 友佳子 伊藤 孝 N.I. 岩崎 安宏
宇井 基泰 魏爬爬 上田 あつ子 上田 まさみ 植原 由起子 内山 賀子 M.U. 遠藤 太加根 K.O.
S.O. 風早 信子 加藤 和子 鎌倉 文 M.K. 北村 則子 H.K. 木村 美明 K.S. M.S. O.S. K.佐藤
澤田 直隆 C.S. A.S. 関 智子 Junko.S A.D. A.D. 田中 貴恵子 土屋 涼子 手塚 ゆみ M.T.
中澤 真人 T.N. 野原 千裕 野本 由美子 橋本 美恵子 E.H. 服部 洋一郎 林 知江 N.H. E.F.
藤島 秀憲 船木 信代 古澤 知広 星野 宏美 細沼 康子 堀田 千佳 松田 香 三上 美智恵 S.M.
村岡 加代 N.M. M.M. N.M. Y.Y. 山下 ひろみ K.Y. 吉本 結紀名

[匿名希望76名]

2020年9月8日現在 *五十音順／敬称略



New Mini Album

新時代へ

～昭和、平成、そして令和へ～

佐藤直紀

指揮・松村秀明／読売日本交響楽団

絶賛発売中!

VPCD-86501
¥1,364+税



Tr.02
藤田真央
特別参加!!

Tr.02「平成～祈り」よりピアノ／譜抜粋

日本の映画・ドラマ音楽の名匠、佐藤直紀との夢のコラボレーションが実現!!



第16回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門 第2位入賞。世界に羽ばたく！

藤田真央 ディスコグラフィ

「幻想即興曲」を含むオール・ショパン・プログラム



CD NYCC-27311 ● 2,500円＋税

レコード芸術・特選

ショパン
スケルツォ／即興曲

即興曲第1番-第4番
(幻想即興曲)

演奏会用アレグロ
スケルツォ第1番-第4番

録音：2019年2月11-13日
ワイアストン・コンサート・ホール
(イギリス)



「蜜蜂と遠雷」風間塵インスパイアード・アルバム！



UHQCD NYCC-27310 ● 3,000円＋税

映画「蜜蜂と遠雷」
藤田真央 plays 風間塵

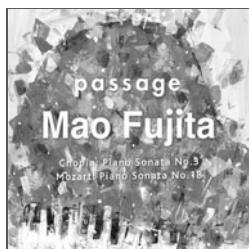
藤倉大：春と修羅、
モーツァルト、サティ、
ショパン、ドビュッシー、
メンデルスゾーン、
バルトークの作品

円光寺雅彦(指揮)/
東京フィルハーモニー交響楽団

録音：2018年8月13日
東京オペラシティコンサートホール 他



ハスキル・コンクール優勝後に録音した10代最後のアルバム



CD NYCC-27306 ● 2,500円＋税

passage

モーツァルト：ピアノ・ソナタ第18番
ショパン：ピアノ・ソナタ第3番
シューマン＝リスト：
ミルテの花 - 第1曲 献呈 他

録音：2018年1月29-31日
アクトシティ浜松 中ホール



おなじみの名曲「月光」を収録したセカンド・アルバム



CD NYCC-27296 ● 2,315円＋税

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ「月光」
ワーグナー＝リスト：『タンホイザー』序曲
プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第6番

録音：2014年9月17-19日
ベルリン・イエスキリスト教会
(ドイツ)



多彩なアプローチを聴かせる鮮烈なデビュー・アルバム！



CD NYCC-10001 ● 2,500円＋税

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第6番
ラフマニノフ：楽興の時
三善晃：ピアノ・ソナタ

録音：2011年12月16日
碧南市芸術文化ホール・エメラルド・ホール
2013年4月2、3日
ベルリン・イエスキリスト教会
(ドイツ)



日本パデレフスキ協会公式アルバム



CD NYCC-27307 ● 2,500円＋税

パデレフスキ ピアノ名曲集
藤田真央／横山幸雄／黒木雪音
(ピアノ)

ミセラネア Op. 16 -
第2曲 メロディ、第4曲 夜想曲
6つのポーランド舞曲 Op. 9
- 第6番 ポロネーズ
旅人の歌 Op. 8 - 第3曲 メロディ 他

録音：2018年8月14、15、29日
横浜市栄区民文化センター リリス

